

### 令和7年度 学修行動調査結果

- 1. 対象 学部全学年
- 2. 実施日 令和7年7月27日～8月31日
- 3. 結果 回答率 91.5%

表1：学年別・学生数および回答結果

	1年生	2年生	3年生	4年生
学生数	140人	133人	134人	134人
回答数	138人	112人	133人	112人
回答率	98.6%	84.2%	99.3%	83.6%

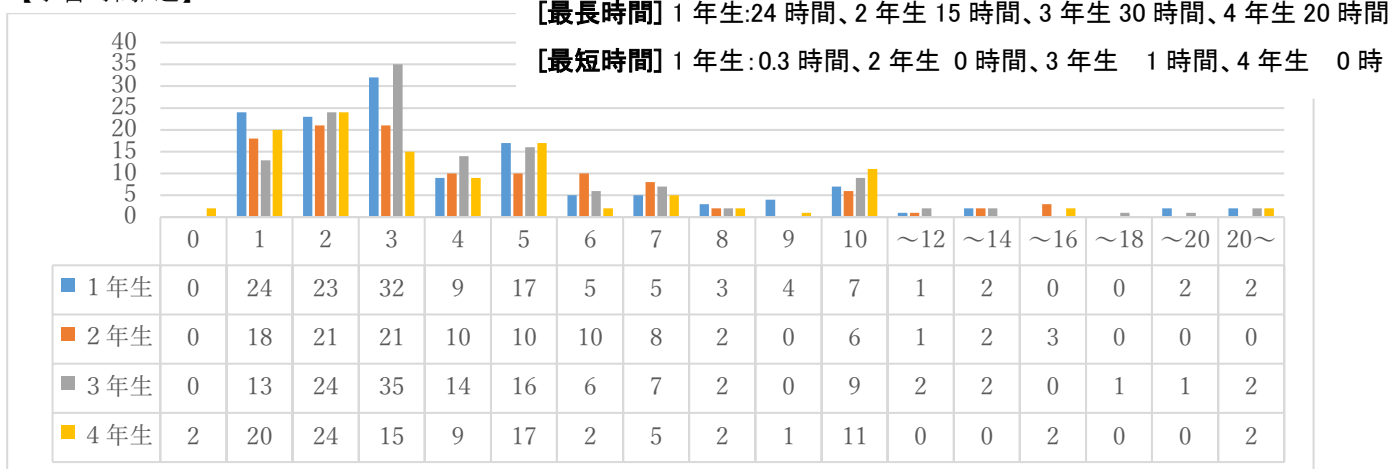
※4月時点での休学学生を除く

表2：各学年の1週間の平均授業コマ数及び予習・復習等の時間数（時間/週）

学年	コマ数	平均時間			
		予習	復習	独自の学修	定期試験 学修時間
1年生	14.5(13.9)	4.0(5.2)	3.6(6.1)	0.8(1.1)	14.3
2年生	13.3(13.9)	6.5(4.9)	7.0(4.4)	1.8(1.1)	32.7
3年生	8.5(8.3)	4.6(6.0)	3.0(5.3)	1.6(1.4)	15.3
4年生	7.0(7.0)	4.3(4.4)	4.2(3.3)	7.2(4.9)	4.8

4年生のみ：実習の予習 8.3、実習の復習 6.4、卒業研究(ゼミ以外)6.9

【予習時間/週】



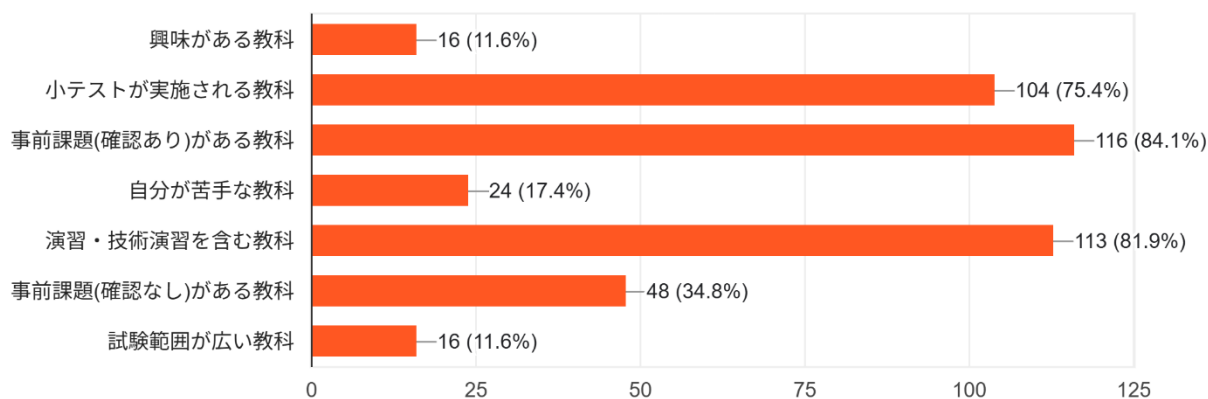
【復習時間/週】



## 【1年生：予習復習の具体的内容】

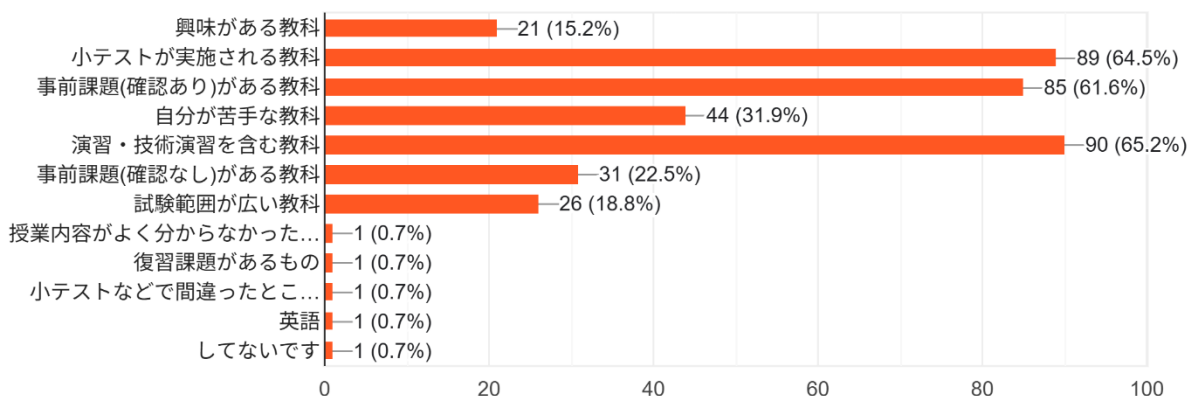
## ③どんな授業のときに予習をしましたか？（複数回答可能）

138件の回答



## ⑤どんな授業のときに復習をしましたか？（複数回答可能）

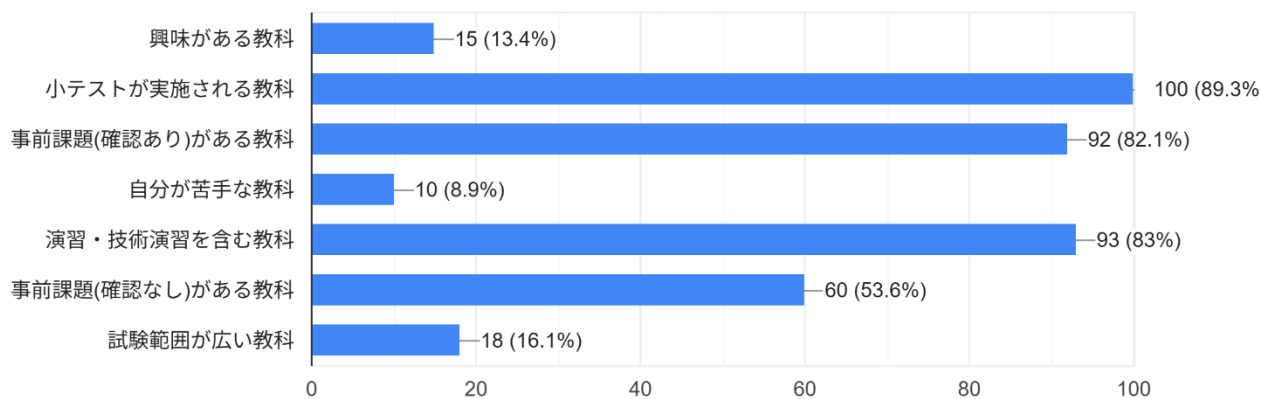
138件の回答



## 【2年生：予習復習の具体的内容】

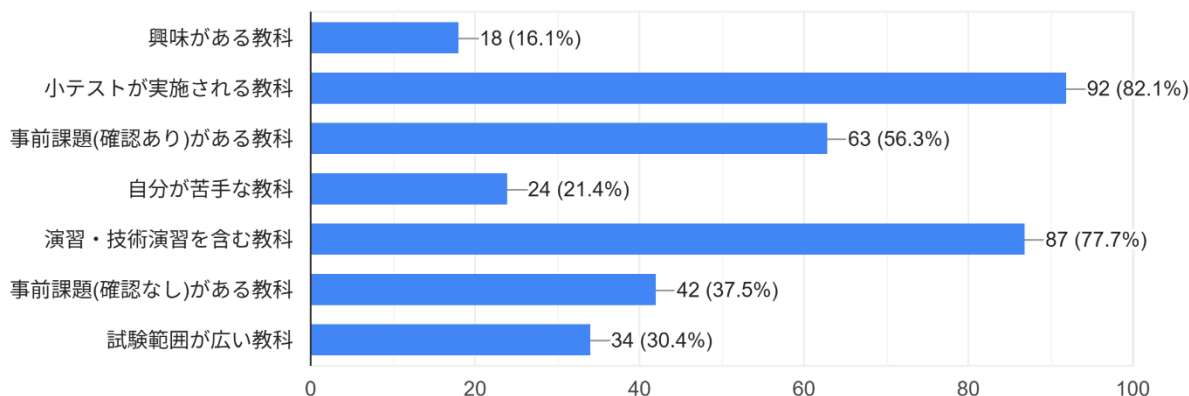
## ③どんな授業のときに予習をしましたか？（複数回答可能）

112件の回答



⑤どんな授業のときに復習をしましたか？（複数回答可能）

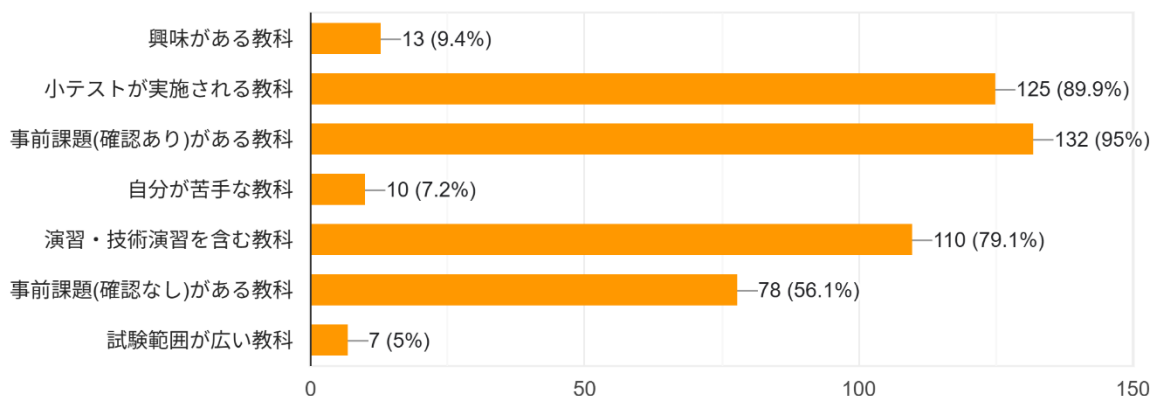
112件の回答



【3年生：予習復習の具体的内容】

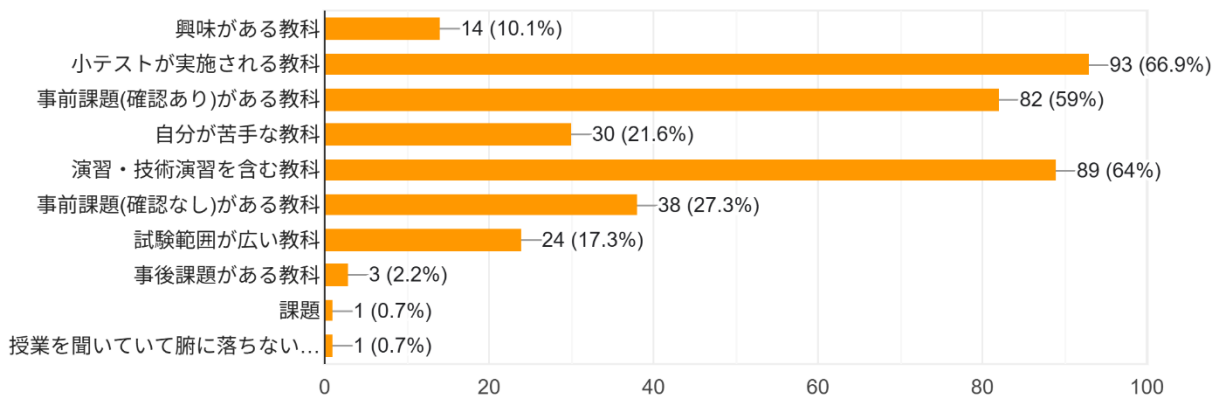
③どんな授業のときに予習をしましたか？（複数回答可能）

139件の回答



⑤どんな授業のときに復習をしましたか？（複数回答可能）

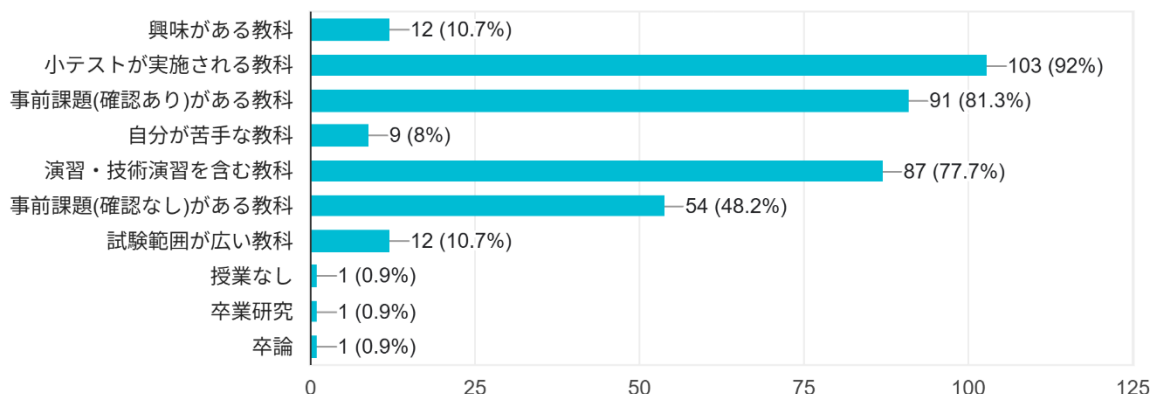
139件の回答



【4年生：予習復習の具体的内容】

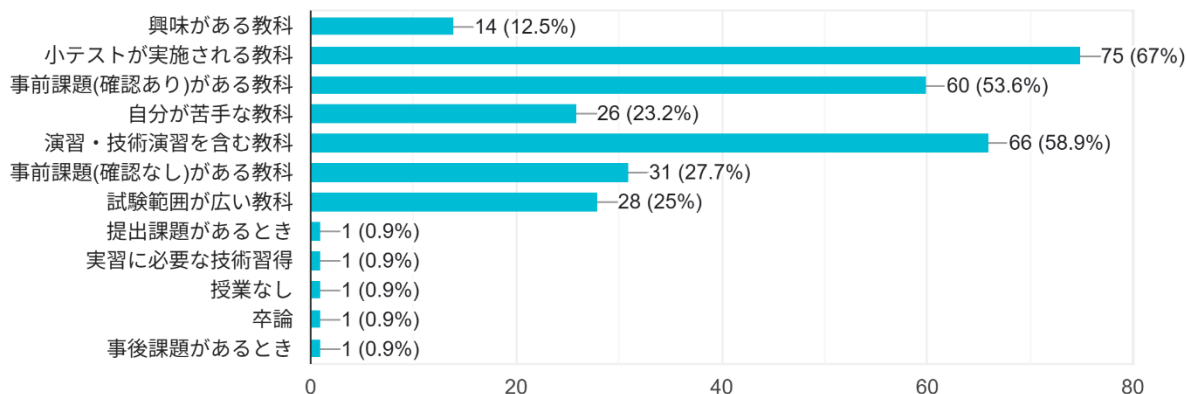
③どんな授業のときに予習をしましたか？（複数回答可能）

112件の回答

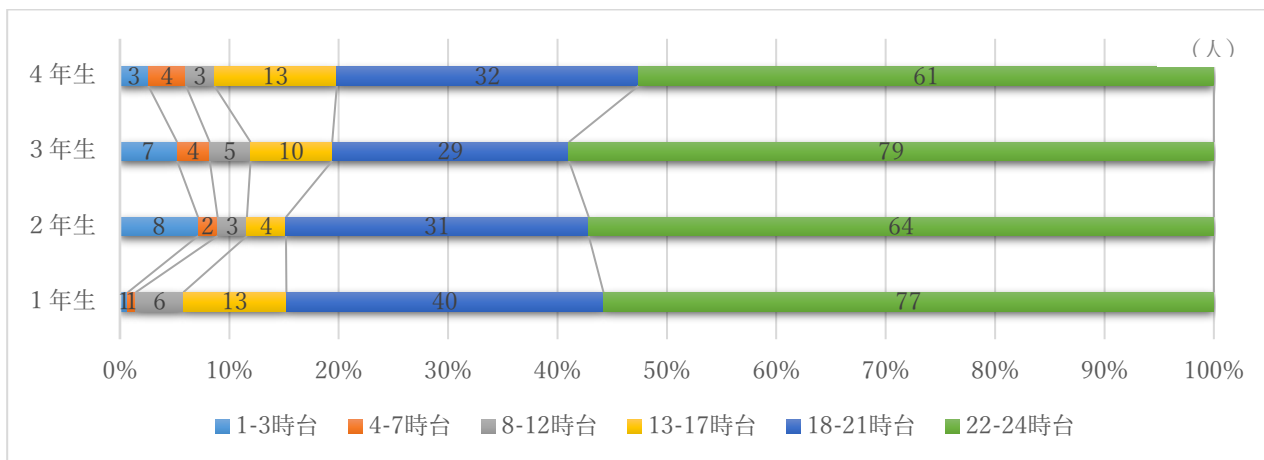


⑤どんな授業のときに復習をしましたか？（複数回答可能）

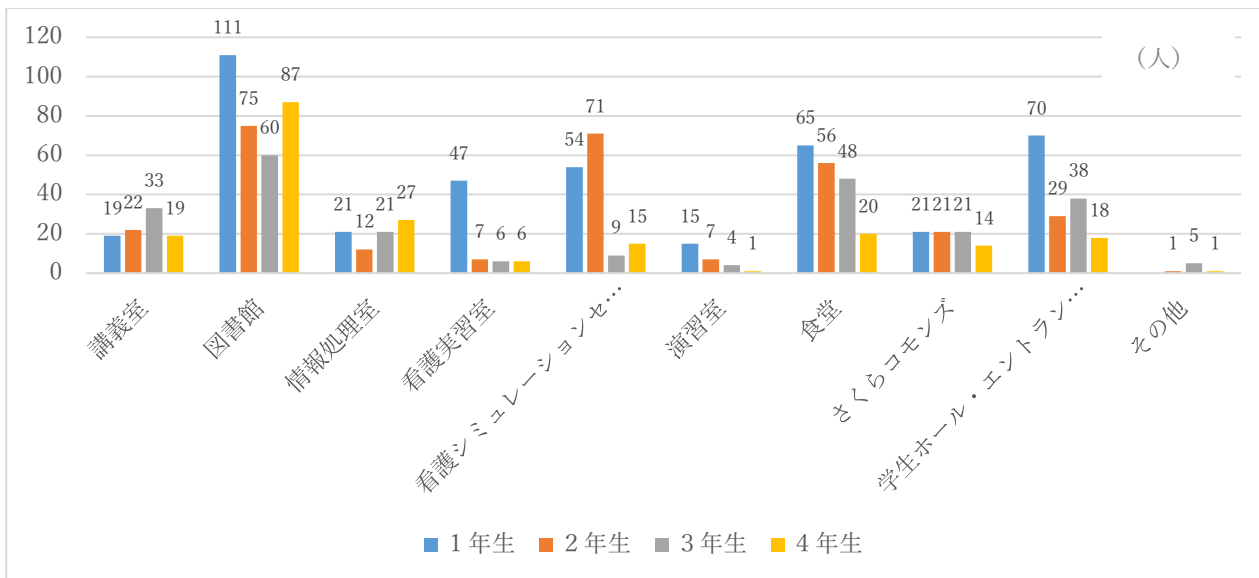
112件の回答



【授業時間以外で、主に学習した時間帯】

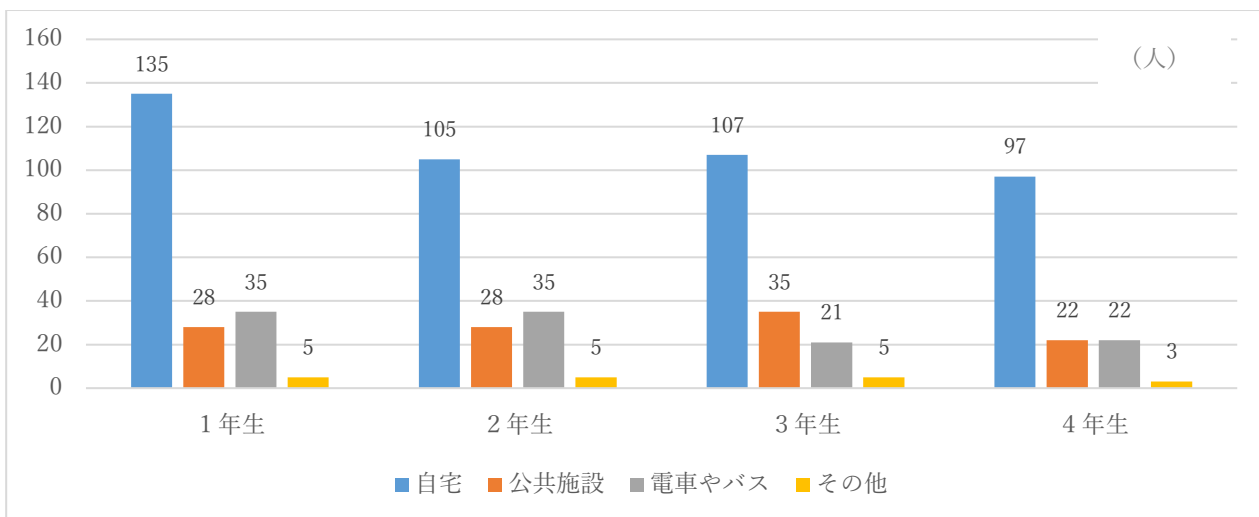


【授業時間以外の学習を行った場所(学内)】



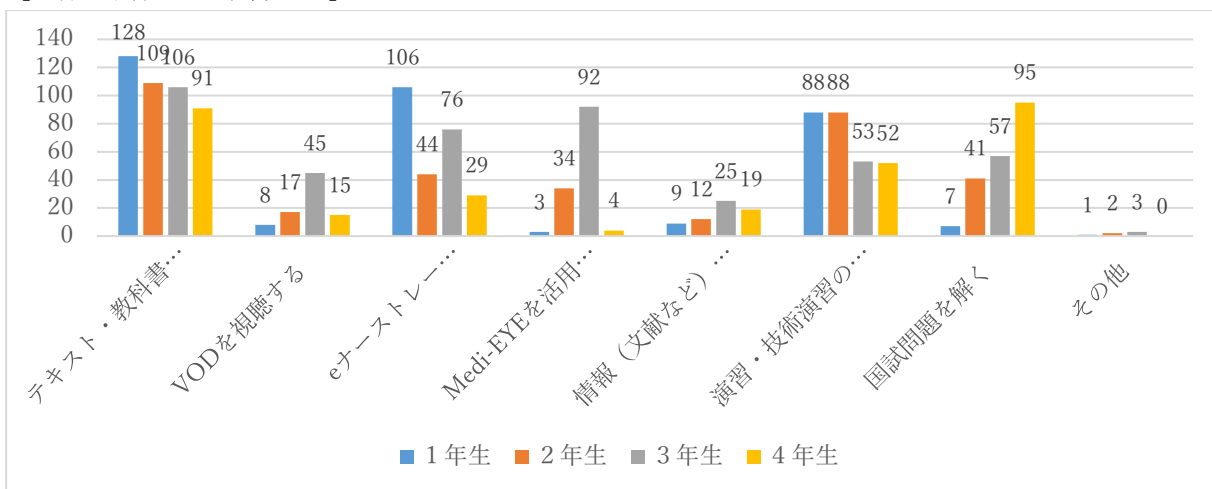
その他の回答：学生ホール以外の大学内の机がある場所 7名

【授業時間以外の学習を行った場所(学外)】



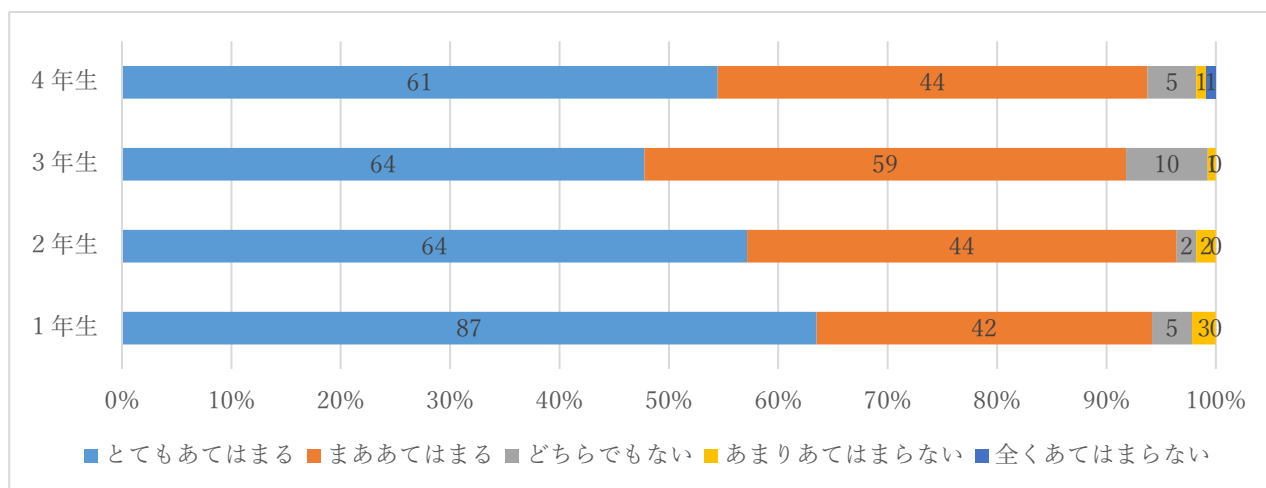
その他の回答：カフェやフードコート 18名

【授業時間以外の学習内容】

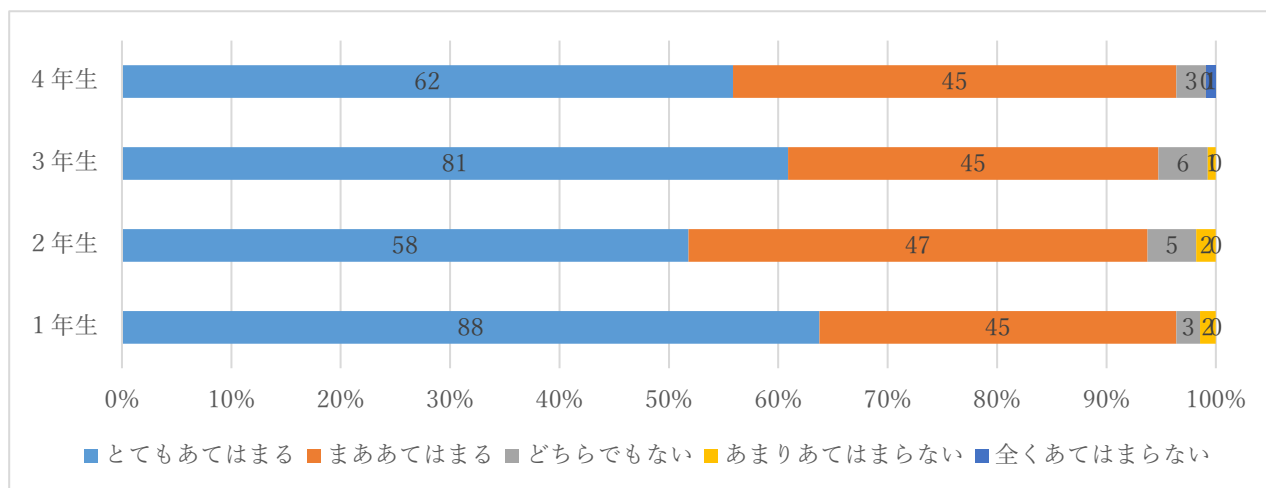


その他の回答：講義資料 3名、自分でまとめたノート 1名、看護 roo 1名、インターネット検索 1名

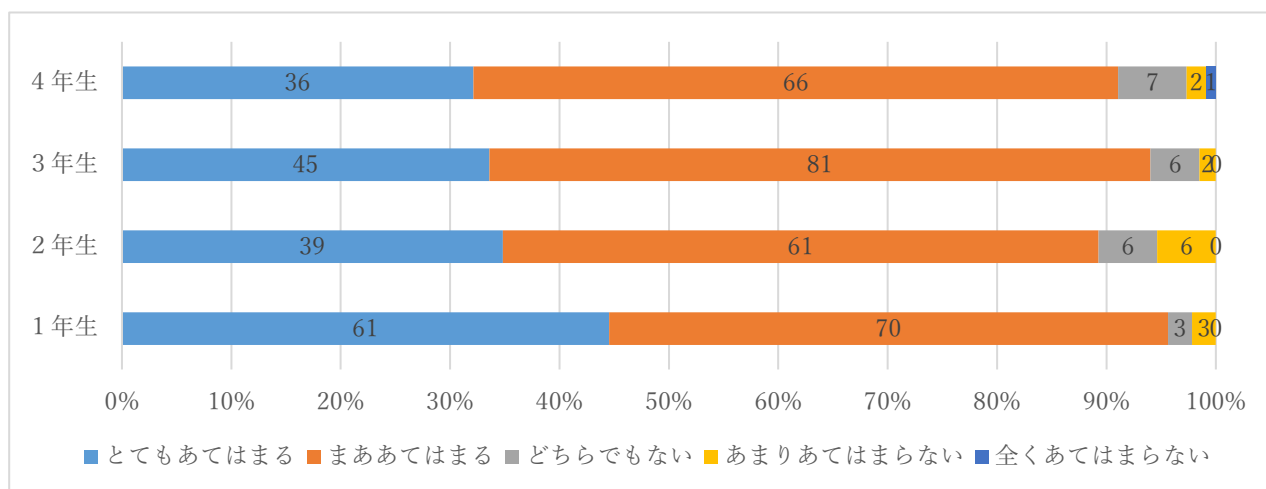
【履修した項目を、あきらめずに取り組んでいますか】



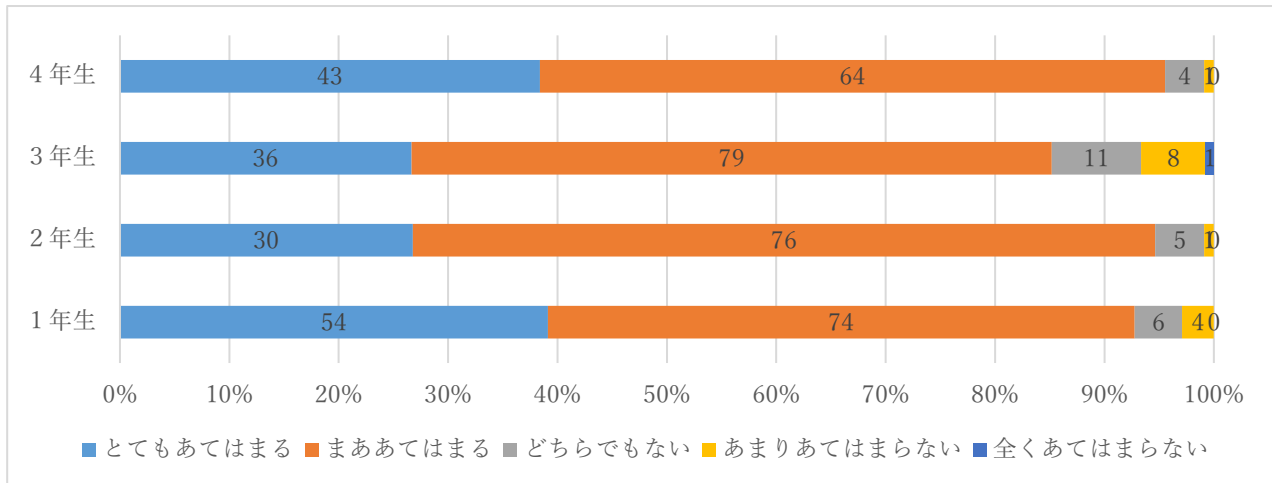
【グループワークやディスカッションで、異なる意見や立場に配慮していますか】



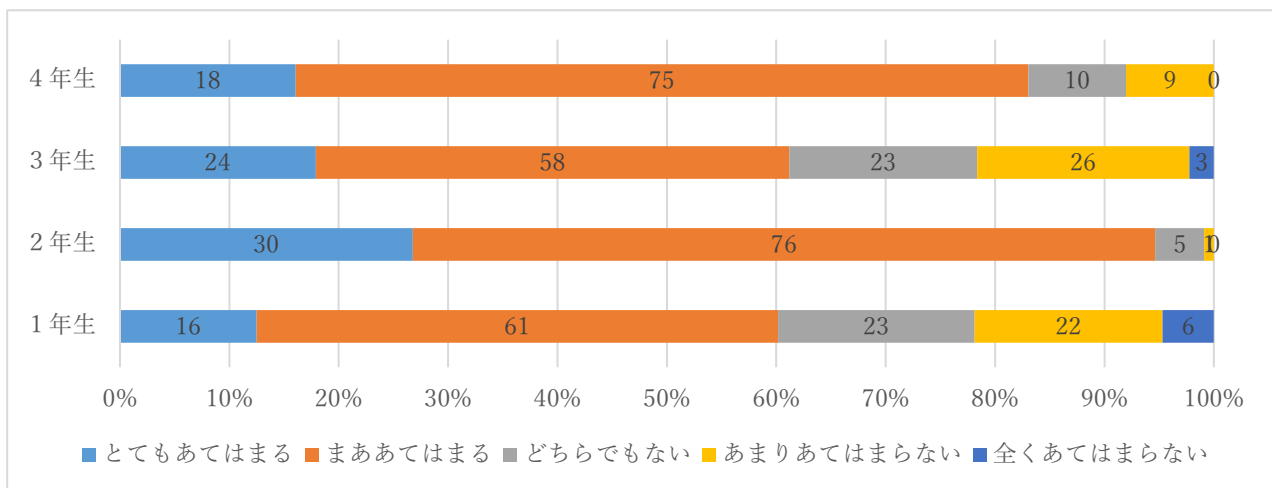
【グループワークやディスカッションで自分の意見を言っていますか】



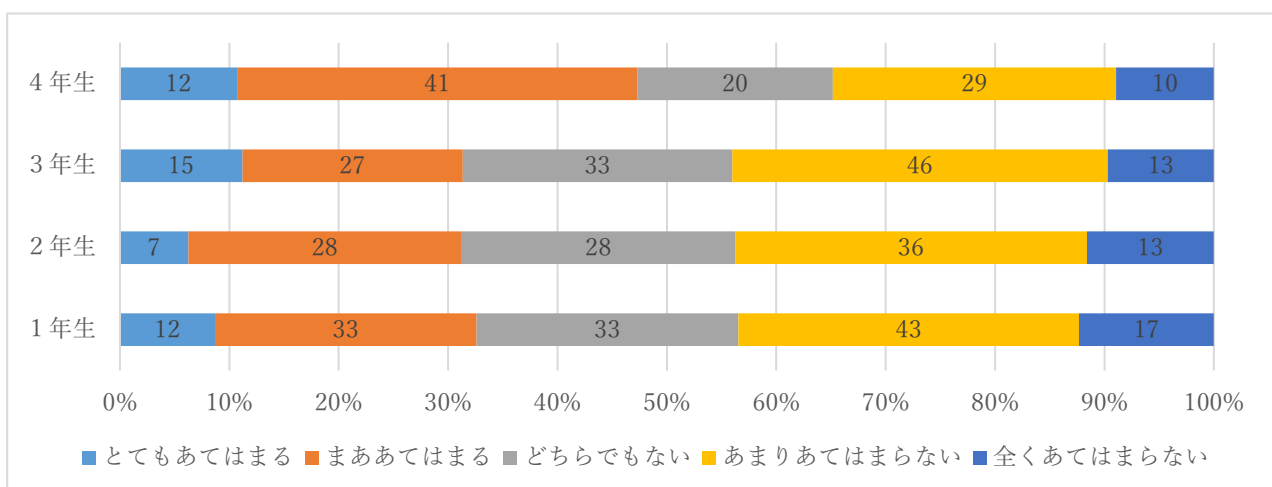
## 【授業でわからなかったことを、自分で調べていますか】



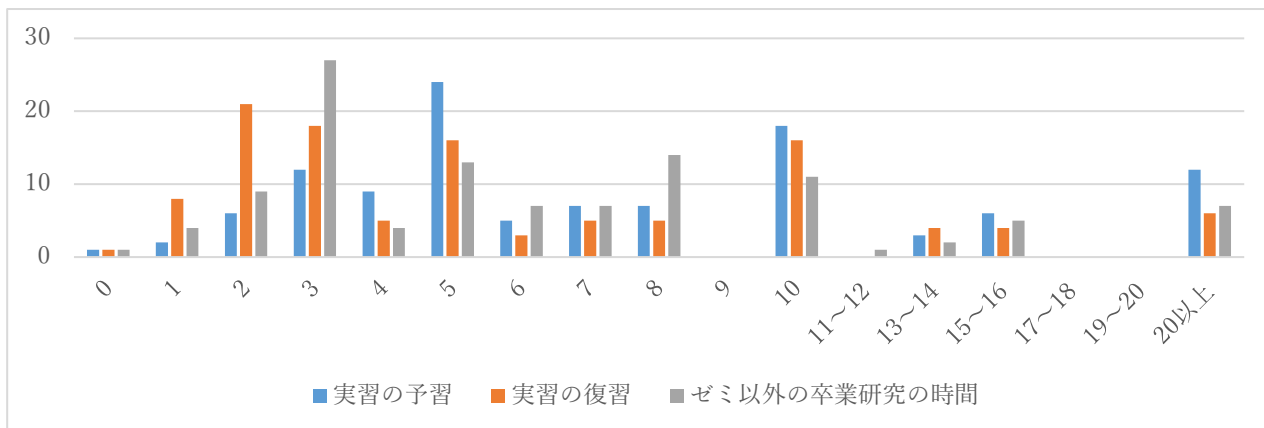
## 【計画を立てて学習していますか】



## 【授業でわからなかったことは先生に質問していますか】



## 【4年生のみ】実習の予習時間・復習時間・ゼミ以外の卒業研究の時間（時間/週）



## 4. まとめ

## 1) 学修時間の傾向

予習・復習時間は今年度も大きな個人差があり、週0時間から20時間以上まで幅が広い。特に復習時間が短い傾向が続いており、復習を促す工夫が必要である。小テストや課題が学修行動のきっかけとなっていることが確認され、教員による計画的な課題設定やフィードバックが、学修時間の確保と定着に有効である。

## 2) 学修場所の利用

3・4年生による看護シミュレーションセンターの活用は依然として少なく、実習前や就職準備に向けた利用促進が課題である。一方、学生ホールやエントランスホールなど、多様な学内空間を学習場所として活用する学生が増えている傾向がみられた。今後も多様な学習環境を整備し、学習資源をより効果的に活用できる体制を整える必要がある。

## 3) 学修内容の特徴

VODやeナーストレーナーは昨年度と同様に活用されているが、文献や情報資源の利用は依然として低調である。レポート作成や卒業研究への取り組みに向け、文献の検索・活用力を高める支援が求められる。また、苦手科目の学習は進みにくい傾向が続いているため、担当教員やチューターが主体的な学修を促す働きかけを行うことが重要である。

## 4) 学修態度・主体性

履修科目に粘り強く取り組む学生は90%以上と高水準であった。グループワークでは学年が上がるにつれて意見を表明できる学生が増え、グループダイナミクスの成長が推測される。一方で、計画的に学修しているのは65~70%にとどまり、約3割は計画性に課題がある。授業での疑問を教員に質問する学生は少なく、オフィスアワーの活用促進が今後の課題となる。